

世の中には、アルファベット 3 文字があふれている。学校に限っても、S S W、S S S、S S R、I C T、R S T などがある。その中でも、A L T は、すっかり定着しているものの一つだろう。A L T とは、Assistant Language Teacher の略である。訳せば、外国語指導助手となるのか。外国語とはいっても、実際には英語を母国語とする外国人の先生のことである。

私が野田中学校に来てからお世話になっていた A L T に W 先生がいる。いい人だった。日本人以上に日本的なマインドをもった方だった。11 月までお世話になったが、生徒へ向けてのお別れのあいさつでは、「次の A L T に、野田中学校の生徒の優しさや思いやりを伝えます」と話してくれた。泣けてくるではないか。本校の生徒のよさが、彼にはちゃんと伝わっていた。いや、彼だからこそ、感じることもできたのかもしれない。

先生方へのあいさつも終わり、改めて校長室にあいさつに来てくれた。私にお願いがあるという。何かと思ったら、英語弁論大会の優勝カップの写真を撮らせてほしいというではないか。本校の生徒が、彼の指導を受け、創作の部で優勝することができたのである。喜んでカップを差し出した。ついでに、二人で記念写真に収まった。コロナ禍ではあるが、二人で固い握手をかわした。ハートのある方だった。

12 月からは、新しい A L T が登場した。11 月下旬に、福島市教育委員会の担当の方とあいさつに来るとの連絡があった。楽しみに待っていたところ、予定よりも人数が多い。外国の方が 4 人だった。本校がお世話になる R 先生だけではなく、同じ時期に来日し、福島市の学校に勤務するようになった A L T も一緒に来てくれた。

おかげで、いろいろな話ができる。日本に着き、ホテルで 2 週間の隔離生活を送ったそうである。4 人の中には、初めて日本に来た方もいた。ホテルの部屋で、2 週間もの期間過ごすのは、どれほど大変なことだったろうと思う。逆の立場だったら、耐えられるだろうか。

無事に隔離期間を終え、福島に着いた。初めての地で、慣れない生活、日本の学校に一人で行く不安、日本語への不安もある。これも、逆の立場だったらと考えると、私には無理である。そういう結論に至る。

本校がお世話になる R 先生は、大学で翻訳学と通訳学を専攻していた。現代フランス語と現代日本語が専門である。日本語はある程度話せるそうだが、日本語を上達させたいということで、A L T として日本に来たそうである。日本の大学への留学経験もある。

宮崎駿、スタジオジブリの作品が大好きで「猫の恩返し」が一番だという。二番目を聞いたところ「千と千尋の神隠し」だった。好きな日本の食べ物は、とんかつとラーメンとのことだった。この 2 つならば、すぐにでも紹介できる。

日本語の上達を目指しているのであれば、なるべく日本語で話すようにしたい。ただし、中途半端な福島弁ではなく、標準語で話さなくてはいけない。そのくらいの使命感はもちたい。彼女も、徐々に慣れてきたところであろう。これからの展開が楽しみである。